

## 「第一志望」を貫徹しよう！

「第一志望を貫徹しよう」即ち「一般入試を受けよう」ということではありません。あくまでも、「第一志望を受けよう」ということです。「AO・推薦も第一志望を受けよう」ということです。

「AO・推薦『も』第一志望を受けよう」。この「も」は、実に変な「も」です。本来のAO・推薦入試というのは、第一志望を受けるための制度です。しかし、実際のAO・推薦受験は、第一志望（行きたい）よりも合格（行ける）を優先することが往々にしてあります。AO・推薦入試と一般入試とでは選抜方法が大きく違い、従って、準備の仕方が大きく違います。AO・推薦入試で第一志望を受験するためには、一般入試のための受験勉強をしながら、AO・推薦入試対策をすることになります。ここで、「二兎を追うものは一兎をも得ず」を恐れ、AO・推薦において、第一志望（行きたい）よりも合格（行ける）を優先する判断が生じることになります。

「主体的・対話的で深い学び」の実現（アクティブ・ラーニングの視点による授業改善）を柱とした高等学校学習指導要領は、令和4（2022）年度の1年生から年次進行で実施されます。一方、高大接続改革により、センター試験は令和元（2019）年度実施をもって廃止となり、令和2（2020）年度実施より大学入学共通テストとなります。

では、なぜ、「大学入学者選抜」の「見直し」なのか。私流に言わせてもらえば、「生きる力」を育成するための新学習指導要領を待ちきれないからです。学習指導要領が変わらずとも、大学入学者選抜が変わってしまえば、高校は変わらざるを得ない。だから、まずは大学入学者選抜を変えるのだと理解しています。高大接続改革元年世代である56期生以降はもちろんのこと、最後のセンター試験を受ける55期生も含めて、「主体的・対話的で深い学び」の実現（アクティブ・ラーニングの視点による授業改善）を柱とした新学習指導要領の趣旨は、既に適用されていると考えるべきでしょう。

大学入学者選抜の見直しの趣旨は、

《学力の3要素》

- ① 知識・技能
- ② 思考力・判断力・表現力
- ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

を多面的・総合的に評価するものへと改善するということです。

思考力・判断力・表現力を評価するために、大学入学共通テストの国語・数学には記述式問題が導入され、各教科の選択式問題には正解の数を示さない出

題がなされます。そして、この方針は、個別大学の試験問題にも影響を与えることでしょう。

一般入試もAO・推薦入試も変わります。これも私流に言わせてもらえば、一般入試にAO・推薦入試的要素が加わり、AO・推薦入試に一般入試的要素が加わるということになります。そして、私は、その方針を大変嬉しく思っています。この方針は、第一志望主義を加速してくれるのではないかと期待しているからです。私は、皆さんに、第一志望を受けてほしいと願っています。

さて、センター試験世代である55期生は、第一志望を貫徹できるか。一般受験のみであるならば、第一志望を受験するのは当然です。悩めるAO・推薦志望者が、第一志望受験を貫けるか否か。貫くためには、一般受験のための受験勉強をしながら、AO・推薦を受験していただくことになります。そして、私は「貫く」ことを強くおススメ（勸・奨）めします。

「一般受験のための受験勉強をしながらのAO・推薦受験」により、「二兎を追うものは一兎をも得ず」になるか否か。私はならないと断言します。なぜならば、二兎どころか、三兎も四兎も追うのが「文武両道」だからです。受験科目に関係なく、日本史・世界史・地理、政経・倫理、物理・化学・生物、できるだけ多く学んだ方がよい。文系・理系に関係なく、文章が書けなければ、世に出て力を発揮することができません。受験科目に集中してしまっただけでは資質向上・能力開発は望めません。全教科・科目、HR活動、学校行事、部活動等により、総合的に自身の資質・能力を向上・開発させながら、受験科目に取り組んだ方が効率的です。そもそも、受験科目だけに集中してしまっただけでは、大学合格がゴールとなり、大学入学後、さらには大学卒業後の成長が期待できなくなってしまいます。追高生は、大学合格をゴールとしてはなりません。

ですから、「一般受験のための受験勉強をしながらのAO・推薦受験」など、文武両道を掲げる追高生は、当然のこととして受け止めていただきたいと思います。

第一志望は、皆さんを動かすエネルギーであり、エンジンです。結果的に、第一志望に受からなくてもいい。大切なのは、「結果ではなくプロセス」です。「第一志望に向かう」というプロセスから得られる力は皆さんの財産になります。結果的に、第一志望には受からないかもしれない。でも、そこまで、皆さんを引っ張り上げてくれたのは、「第一志望」です。「第一志望に向かう」ことは、決して、皆さんを裏切りません。（第一志望に受からなければ、最終的な進学先を、積極的な後付けにより、第一志望にすればいい。かく言う私が第一志望には受かっていません。新聞記者になりたかった私は、1校しか受けなかった国文科だけ合格し、そのおかげで（第一志望不合格のおかげで）、高校の国語教師になることができました。）

ですから、皆さん。今は、「向かう」べき「第一志望」に集中してください。その努力は、皆さんを決して裏切りません。

文章を書き（共通テストの「記述式」問題、個別選抜の小論文）、第一志望を貫徹しましょう、そのプロセスは、決して、あなたを裏切りません。そのプロセスが、不確実で複雑な時代を生き抜く「確かな人」「一流」「本物」に、皆さんを導きます。